

衛生 4月X

麻疹 養シ 蚊とハエ

麻疹流行か？

四月から五月にかけて、今年の子供の麻疹がやはりそう。麻疹は三十五年毎に流行する傾向があり、熊本県では少い年には四〇〇人台だが、三十一年には一五〇〇人にもなった。今年は一、二月と三月に六〇〇人も患者が出ている。

麻疹は、割合安易に考えられているが、麻疹患者を診察した医師は保健所長に届け出ることになっており、学校でも「第二类伝染病」として、主要症状がなくなつて七日経たなければ登校してはならないと定められている。

麻疹は一度かゝつたら二度とかゝらない病気で、五才までに大抵の子供がかゝるが、大人でもかゝる人がある。

麻疹にかゝつたら、安静と、消化し易くビタミン特にAに富んだ食べ物をとることは勿論、保温についても、これまで「温めろ」と言われてきたのは「冷やすな」というのが正しい。

順調に回復する一方には、内攻を起したり、肺炎、腎炎、中耳炎、時には脳炎を併発することもあるので、早めに医師の診察を受けること。

「ケシ」は栽培禁止

四月は花の季節……色々の花が咲き始めるが、花の中で「ケシ」は麻薬の原料となるため、「アヘン法」によつて、県下ではたとえ観賞用であつてもその栽培は禁止され、違反すると処罰を受ける。

たゞし、植えてよい種類もある。よく庭園で見られる「ヒナゲシ」がそれ。美人草ともいわれる。成長すると高さ五、六十センチになり、茎は小さな粗毛でおおわれ、赤、白、紫などの花弁をつける可憐な花。このヒナゲシのほかにもオニゲシ、アザミゲシは「アヘン法」にいう「ケシ」ではないので自由に植えて差支えない。

植えていけない「ケシ」の見わけ方は……これはヒゲナシと異り、成長すると草丈が一メートル、葉が大きく、下部の葉はふちがのこぎり状でわずかな切れ込みがあり、葉のつけ根は茎を抱き込んでいる。葉や茎の色は白緑色でろうをぬつたような感じのするもので、一般に「ケシ」と呼ばれているもの。花弁の色はこれも紅、白、紫などがあり又、一重咲、八重咲の区別があつて、五月頃開花し、花弁がおちると、後には所謂ケシ坊主ができるが、成熟するとこれが小さな卵位の大きさとなる。

植えていけない「ケシ」かどうか区別がわからない時は、県薬務課が最寄りの保健所に尋ねて、違反のないよう十分注意することが大切。

新入学児童のためもの

幼稚園や小学校に入学してから一カ月の間、子供は食欲がなくなり、元気がない状態がつづくことがしばしばある。これは集団生活の環境になれるまで、神経をつかい疲労するのが原因。

この時期の子供の食べ物には次の点に十分気をくばること。

- 第一に身体の発育は勿論、神経、脳組織の発育の最も旺盛なときだから、蛋白質の中でも酪蛋白質を多く含んでいる卵、牛乳、脱脂粉乳、鶏肉、大豆や大豆製品（豆腐、油揚げ、黄粉）などのうち、少くともどれか一品をかかさないようにすること。
- 第二に量が少なくて熱量が沢山とれる油脂類を調理に用いる。
- 第三に新鮮な野菜や果物を毎食事にそえること。

特に、白米には米の配給所で販売している強化米を一人一日一瓦あて混ぜてもらつて、ビタミンB₁を十分とるようにすれば疲労の予防にも回復にも役立つ。

生活改良普及員



写真は睦道で相談をうける森川さん(右)

普及員の窓口

ところで普及員の仕事だが、これは一口にいって、農村の生活改善の指導ということになる。生活改善といつても例えば衣生活、食生活、住いの問題など広い分野にわたつて指導が展開される。主なものあげて分類すると次のようなことになる。

- 衣服……作業衣の改良、わらぶとんの普及、家庭着の管理など
- 食生活……栄養食、保存食の普及指導、調理技術の指導、共同炊事の奨励など
- 住い……台所改善など
- 家庭管理……家計簿の指導、仕事の能率的な配分など

普及員の活動は大半が農村での現地指導である。だから、思いがけない難かしい注文を持たれる時もあり、或る時は仕事を離れたコマンドした相談にも乗せられる場合もある。そういった密着した形でなければ又、普及員の仕事もできないだろう。

では山鹿地区農業改良普及事務所の森川幸恵さんと、高木喜久子さんの場合をこれから紹介しよう。普及員の経歴は、森川さんが十年目で山鹿市と鹿央村を担当。高木さんは五年目で担当は鹿北村。いわば森川さんが先輩格というところ。次に日頃の活動ぶりを一問一答で伺つてみよう。

小学1年生の交通事故

- ★ 新しいランドセルを背に、嬉しそうに通学する小学1年生が、交通事故にあつた例が4月から5月にかけて極めて多い。
- ★ 親が通学が一番安全な道路を選んでやり、右側通行、横断などについて、実地指導をしてやること。先生に頼りすぎはいけない。
- ★ 子供の事故は大道路よりも、中、小道路で多く起り、一週間のうちでも土曜日がが多い。(県警本部)

これからふえる海の事故

- ★ 4月から5月にかけて、船遊びや海の旅が多くなる。特に次の点には気をつけよう。
- ★ 定員を越えムリな乗船は事故のもと。これまでの数かずの転覆事故も大部分定員オーバーであつた。
- ★ 海の気象にはよく気をつけよう。海上では陸上よりも3~4割も強い風が吹いている。又、海上気象は変りやすいので、気象が悪くなりそうな時は早く切りあげること。(七管海上保安部)

蚊やハエの駆除はイマ……春から初夏にかけて、蚊やハエはすさまじい勢いで繁殖し、活動を再開する。そこで、今その立上りをやつけるのが最も効果的。夏になつてからではおそい。

蚊を駆除するには①水たまりは全部土砂で埋める②防火用水槽などには魚を飼い、水を時々かえる③下水は絶えず清掃する。

ハエを駆除するには①ゴミはやつたらに捨てないで、フタのある容器に入れる。②便所の汲取口は完全にフタをし、便器にもフタをして、窓には網を張る。③肥料ダマ、畜舎などには網戸をはるか、残留糞をする。

だがこれ位ではまだくっ減はむづかしい。個人々々でやらずに、部落総出で、薬液も使用して、何回もくっ根気よく駆除を続けなければいけない。(衛生部)

普及員の窓口

ところで普及員の仕事だが、これは一口にいって、農村の生活改善の指導ということになる。生活改善といつても例えば衣生活、食生活、住いの問題など広い分野にわたつて指導が展開される。主なものあげて分類すると次のようなことになる。

- 衣服……作業衣の改良、わらぶとんの普及、家庭着の管理など
- 食生活……栄養食、保存食の普及指導、調理技術の指導、共同炊事の奨励など
- 住い……台所改善など
- 家庭管理……家計簿の指導、仕事の能率的な配分など

普及員の活動は大半が農村での現地指導である。だから、思いがけない難かしい注文を持たれる時もあり、或る時は仕事を離れたコマンドした相談にも乗せられる場合もある。そういった密着した形でなければ又、普及員の仕事もできないだろう。

では山鹿地区農業改良普及事務所の森川幸恵さんと、高木喜久子さんの場合をこれから紹介しよう。普及員の経歴は、森川さんが十年目で山鹿市と鹿央村を担当。高木さんは五年目で担当は鹿北村。いわば森川さんが先輩格というところ。次に日頃の活動ぶりを一問一答で伺つてみよう。



(高木さん)

最近生活改善グループなどの活動が盛んなようですが……

(森川さん) そうです。ね月平均二十件くらいでしょうか。なかなか全部は消化できません。今のところ現地指導が八十%、一般指導が二十%の割合でやつていますが、どうしても普及員自体の研究時間が喰われてしまっています。

・現地指導はどういうふうにして？
(森川さん) まず、指導依頼が事務所に電話や郵便であつたり直接申込みを受けたりしますが、それらをメモして、毎月大体のプランをたてるのです。その中で注文の多いのが講習会や個別指導です。例えば調理技術指導の場合だと、前もつて材料を準備して貰つています。場所ですか？そうです。ねたいてい村の公民館か個人農家です。近い所は自転車で行かれますが遠い所はバスを利用していただきます。

多いでしょう。

(高木さん) 今県下で約五〇〇〇くらいでしょうか。現在私の担当している鹿北村だけでも七グループで、森川さんの山鹿市が十二、鹿央村が八つです。はじめ婦人会や小地域を対象に一般指導を行つてきたのが、三十年頃からグループ指導へ重点をおくようになり、特に婦人たちの自主的な研究グループが目立つてふえて

・何か悩みは……
(森川さん) ことさらにはありませんが思うとおりに行かない時があつて、時々反省しています。自分だけの考えでなくみなさんが何を求めているかをよくつかむことが大切だと思つてはいますが……

・嬉しい時は……
(高木さん) みんなと一緒に溶け合つた雰囲気です。

・普及員の勉強する時間は……
(森川さん) 月に一回、自由な時期に希望研修を受けています。これは県の農業試験場内にある生活改善実習所で専門的な研究をするわけです。その他に年二回ぐらい合同研修会があります。